

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 8 月 22 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (8/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	29.9	4.0 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	37.9	8.49 kPa g	A系： 0.01 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.01 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	36.2	0.24 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (8/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	30.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	29.1 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	28.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	27.4 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65°Cに十分な余裕を持った 45°Cを超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C以下として管理する。

5/16 当該撤去作業に用いるクローラクレーンに不具合が確認されたため、現在、当該撤去作業を中断。これまでの調査において修理点検に期間を要すると判断したことから、当初予定していた6月上旬の同冷却系の停止運用期間を延長。

8/25～ その後、予定していたクローラクレーンの年次点検に併せて、不具合箇所の修理が完了したことから、当該撤去作業を再開する。また、当該撤去作業の再開に伴い、燃料交換機撤去対象機器に残存している油が使用済燃料プール代替冷却系へ混入するのを防止するため、以下の予定で使用済燃料プール代替冷却系の停止運用を行う。なお、燃料交換機撤去対象機器に残存している油が使用済燃料プール内に滞留した場合には、吸着マット等で油を回収した後使用済燃料プール代替冷却系を起動することとする。

< 使用済燃料プール代替冷却系の停止期間※ >

H26/8/25～H26/10 中旬(予定)

※使用済燃料プール代替冷却系停止・起動操作における当直員の被ばく低減の観点から、原則として「毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00」の間は停止、「毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00」の間は運転する。

< 使用済燃料プール代替冷却系の停止時間 >

最長で 129 時間(毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 に停止した場合)

3号機使用済燃料プール水温度は、本日(8/22)11:00 現在で 28.8°Cであり、使用済燃料プール代替冷却系停止時の使用済燃料プール水温度上昇率は 0.114°C/h、停止中の使用済燃料プール水温度上昇は最大で約 15°Cと評価しており、運転上の制限値 65°Cに対して余裕があることから、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。また、作業にあたっては、使用済燃料プール水温度が 45°C(運転上の制限値 65°Cに対して十分な余裕を持った温度)を超えないよう、使用済燃料プール代替冷却系停止前における使用済燃料プール水温度を 29°C以下として管理する。

【4号機】

・H26/8/25～8/27 4号機使用済燃料プール代替冷却系については現在運転中であるが、当該系循環冷却設備一次系フレキシブルチューブの交換等を行うため、最長で 60 時間停止する予定。なお、使用済燃料プール水温度は本日(8/22)11:00 現在で 27.4°Cであり、冷却停止時間における冷却停止時の使用済燃料プール水温度上昇率は 0.266°C/hで、停止中の使用済燃料プール水温上昇は最大で約 16°Cと評価

されることから、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→	3号機タービン建屋	8/15 10:00 ~ 8/21 19:13 移送実施
3号機	3号機タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	8/19 16:18 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (8/22 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)
運転状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。

<5. その他>

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
- 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
- 8/12～ ドライアスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・8/6 18:44 地下水バイパス揚水井 No.12 の分析結果(8/5 採取)において、トリチウム濃度が 1,900Bq/L であり、一時貯留タンクの運用目標値 1,500Bq/L を上回っていることを確認したことから、当該揚水井の汲み上げを停止。なお、地下水バイパス揚水井 No.12 の分析結果については、第三者機関による分析においても同等の結果だった。
- ・8/22 10:00 地下水バイパス揚水井 No.12 のトリチウム濃度が運用目標値を超えていることから汲み上げを停止していたが、一時貯留タンク側の評価を行った結果、汲み上げに問題がないため、汲み上げを再開。再開後の現場は異常なし。なお、今後も地下水バイパス揚水井 No.12 については、トリチウム分析結果傾向の監視強化を継続し、一時貯留タンクへの影響がないことを確認する。

【H4,H6エアータンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・8/20 に初めて採取したH4エリアの地下水観測孔 E-13, 14 の測定結果は以下のとおり。

[E-13 の測定結果:8/20 採取分]

- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:15 Bq/L)(お知らせ済み)

- ・トリチウム:530 Bq/L

[E-14 の測定結果:8/20 採取分]

- ・全ベータ:40 Bq/L(お知らせ済み)

- ・トリチウム:610 Bq/L

その他については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上